

令和 5 年 度 自 己 評 価 表

【中長期目標(学校ビジョン)】

- 1 主体的に学び、自分の言葉で表現できる生徒を育成する。
- 2 チームで取り組む経験を通し、互いの多様性を知るとともに自己有用感を高める。
- 3 地域連携の主体となり、地域に根ざした学校としての役割を果たす。

【今年度の重点目標】

- 1 生徒の進路希望の実現にむけた支援

① 基礎学力の充実

② 探究活動の充実

③ 進路希望の実現
- 2 心身の健全な発達の促進と主体性の伸長

① 挨拶、ルール・マナーの徹底

② 多様性に配慮した他者理解力の育成
- 3 生徒会活動、部活動の充実

① 学校行事への積極的関与

② 部活動の推進
- 4 生徒・保護者・地域に信頼される学校作り

① 授業改善の取組

② 地域貢献活動の推進

③ 適時な情報発信
- 5 業務改善の推進

① 行事・会議の精選

② 時間外業務の縮減

	具体的項目	令和5年度当初			評価結果（9月）		
		現状	目標（年度末の目指す姿）	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 生徒の進路希望の実現に向けた支援	基礎学力の充実	・自宅学習時間調査(11月)では、1週間の平均で1日当たり、1年92.5分、2年98.9分、3年151.7分であり、4月の調査結果よりも減少した。 ・授業評価アンケートでは、学習内容に興味、関心を持ち、意欲的に取り組む生徒の割合が、1年84%、2年87%、3年93%。	・自宅学習時間は、1週間平均で1日当たり、1、2年が120分以上、3年が200分以上。 ・学習内容に興味、関心を持ち、意欲的に取り組む生徒の割合が、各学年とも90%以上。	・自宅学習調査を定期的を実施し、学習状況を把握した上で学習習慣の定着を図るよう指導する。また、学習支援サービスの活用を促す。			
	探究活動の充実	・探究部の調査(12月)において、探究活動により思考力等が向上したとする生徒の割合は44.6%。	・探究活動をとおして、思考力等が向上したとする割合が60%以上。	・主体性等の評価の研究、指導方法の研究（問いづくり・情報分析）を推進する。			
	進路希望の実現	・学校評価アンケート(12月)では、進路実現に向けて努力している生徒の割合は87%。 ・進路志望調査(10月)では、国公立大学志望者は1年120名(49.6%)、2年111名(51.5%)、3年99名(40.7%)。専門学校志望者は医療・看護系を中心に1年45名(18.6%)、2年32名(13.2%)、3年54名(22.2%)。 ・令和5年度入試共通テストの出願は132名(54.3%)であり、国公立大学の現役合格者数は43名。	・進路実現に向けて努力している生徒の割合が1年75%以上、2年90%以上、3年95%以上。 ・国公立大学の現役合格者数が60人以上。	・高い志望を掲げて努力する生徒を育成するために、各類型の特色を踏まえながら進路関係行事を充実させ、生徒の進路志望の実現を図る。			
2 心身の健全な発達の促進と主体性の伸長	挨拶、ルール・マナーの徹底	・学校評価アンケートでは、99%の生徒が学校で定められたルールやマナーを守るよう心がけている。なお、生徒がルールやマナーを守っていると評価している保護者の割合は100%、職員の割合は94%。	・ルールやマナーを守るよう心がけている生徒の割合が98%以上。 ・改正した校則やマナーを守った上で、生徒の主体的な活動により、校則の意義を考え、必要な見直しが行われている。	・挨拶の大切さやルール・マナーを遵守する意義を理解させ、自主的に守るよう指導する。			
	多様性に配慮した他者理解力の育成	・学校評価アンケートでは、生徒86%、保護者74%が、学校は心身の悩みに関わる相談について適切に対処していると考えている。 ・生徒80%、保護者72%は、学校が保護者(家庭)と連携して教育活動を行っていると考えている。	・生徒の心身の悩みに適切に対処していると回答する生徒の割合が85%以上、保護者の割合が80%以上。 ・保護者(家庭)と連携して教育活動を行っている生徒の割合が85%以上、保護者の割合が80%以上。	・多様性を尊重する態度や互いのよさを生かして協働する力を身に付け、他者への共感や思いやりなどの豊かな人間性を育む教育を推進する。そのために、日頃の観察や面談、心理検査等をとおして生徒理解を深め、適切な指導・支援を行う。 ・家庭や地域との連携を密にし、地域全体で生徒の健全育成に取り組む。			

	具体的項目	令和5年度当初			評価結果（9月）		
		現状	目標（年度末の目指す姿）	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
3 生徒会活動、部活動の充実	学校行事への積極的関与	・学校評価アンケートでは、HR 活動や生徒会活動、学校行事で主体的に活動していると回答した生徒は 80%。	・HR 活動や生徒会活動、学校行事で主体的に活動している生徒が 80%以上。	・諸行事や学校生活等の様々な場面において生徒が主体となって企画、実施に取り組めるよう図るとともに、その方法を下級生に引き継ぐことができるよう指導を行う。			
	部活動の推進	・学校評価アンケートでは、部活動に所属する生徒のうち、学習との両立に向けて努力していると回答した生徒は 40%、ややできている生徒が 41%であったが、あまりできていないと全くできていないという生徒は 19%。 ・全国大会へ出場した生徒は 67 名(実人数)。	・学習と部活動の両立に向けて努力している生徒の割合が 60%以上。 ・全国大会に出場する生徒数が 80 名以上。	・生徒が向上心と意欲をもって粘り強く取り組みめるよう的確な方針や計画・目標等を設定するとともに、学習との両立を支援する。			
4 生徒・保護者・地域に信頼される学校作り	授業改善の取組	・昨年度は全 9 教科で公開研究授業を実施し、教員間で授業改善の情報共有に努めることができた。 ・ICT 活用の促進ための校内職員研修を 12 月に実施し、職員のスキル向上を図った。	・全教科で研究授業、公開授業を総計 25 回以上実施し、他教科の授業も参観することで授業改善の参考とする。 ・教員の ICT 活用力を向上させ、生徒の理解向上を図る。	・全教科による公開授業や校内研修を実施し、教科の枠を超えた授業改善に取り組む。			
	地域貢献活動の推進	・学校評価アンケートでは、学校が地域と連携した教育活動に積極的に取り組んでいると回答した生徒は 89%。 ・探究活動により、地域理解が深まったとする生徒の割合は 53. 6%。 ・昨年度第 1 回愛し愛され運動(6 月)には、346 名(全校の 45. 6%)の生徒が参加。第 2 回(10 月)では 1、2 年を中心に 198 名(全校の 27%)が参加し、1、2 年の参加率は 40. 8%。	・学校が地域と連携した教育活動に積極的に取り組んでいると考える生徒が 90%以上。 ・地域理解が深まったとする生徒の割合が 60%以上。 ・「愛し愛され運動」への参加者が各回とも全校生徒の 40%以上。	・小中学校との交流行事や探究活動での地域及び企業等との連携を充実させる。 ・地域の清掃活動や挨拶運動に積極的に取り組み、地域を愛する心を育む。			
	適時な情報発信	・学校評価アンケートでは、学校のホームページが学校の様子をよく伝えていると回答した生徒が 84%、保護者が 78%。	・ホームページや SNS により、学校の様子をよく伝えていると考える生徒、保護者がともに 90%以上。	・学校の様子を分掌や教科、部活動などの単位で HP 等をとおして発信する。			
5 業務改善の推進	行事・会議の精選	・例年を踏襲している行事が多く、全体をとおして日程が詰まっており、時期によっては行事、会議が集中することがある。	・できるだけ縮減する方針で行事の見直しが行われ、会議は短時間で効率よく終わる。	・行事、会議の開催ごとに、その効果と課題を検証し、今後の改善及び精選に繋げる。			
	時間外業務の縮減	・令和 4 年度、時間外在校等時間が月 45 時間を超えた教職員が月平均 8. 2 名、年間 360 時間を超えた教職員が 18 名。 ・令和 4 年度、年次有給休暇取得状況は、1 人当たり 14 日。	・時間外在校等時間が月 45 時間を超える教職員が月平均 5 名以下、年間 360 時間を超える教職員が 10 名以下。 ・年次有給休暇取得が 1 人平均 14 日以上。	・業務内容を精査した上で縮減に努めるとともに、業務を分担し平準化するよう配慮する。			

評価基準 A：十分達成 [90%] B：概ね達成 [80%程度] C：変化の兆し [60%程度] D：まだ不十分 [40%程度] E：目標・方策の見直し [30%以下]